

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2年後期	2	2	選択
担当教員			
大畑 秀人			
添付ファイル			
講義概要			
パーソナルコンピュータを活用した、サウンド制作の基本を学ぶ。音楽の基本となる「楽典」、コンピュータミュージックの基本となる「MIDI規格」のほか、「音響」「ミキシング」などのさまざまな基本事項を踏まえたうえで、制作実習を行なう。 制作においては、ツールの基本操作はもちろん、特定のツールに拠らない制作技術の習得も視野に入れる。			
授業計画	1	楽典とMIDI規格	制作実習に必要と思われる音楽や音響の基礎知識、MIDI規格との関連を習得する。
	2	データ制作の基本(1)	ソフトウェアの基本操作の習得と、データ操作に関する基本事項を習得する。習得内容の確認のため、演習課題を制作する。
	3	データ制作の基本(2)	ソフトウェアの基本操作の習得と、データ操作に関する基本事項を習得する。習得内容の確認のため、演習課題を制作する。
	4	データ制作の基本(3)	ソフトウェアの基本操作の習得と、データ操作に関する基本事項を習得する。習得内容の確認のため、演習課題を制作する。
	5	データ制作演習(A-1)	演習AではAUDIOデータのほかにMIDIデータを取り扱う。準備学習として、テキストの「MIDI」の項を予習しておくこと。習得内容の確認のため、演習課題を制作する。
	6	データ制作演習(A-2)	演習AではAUDIOデータのほかにMIDIデータを取り扱う。準備学習として、テキストの「MIDI」の項を予習しておくこと。習得内容の確認のため、演習課題を制作する。
	7	データ制作演習(B-1)	演習Bでは基本的なエフェクトプラグインを取り扱う。準備学習として、テキストの「エフェクター」の項を予習しておくこと。習得内容の確認のため、演習課題を制作する。
	8	データ制作演習(B-2)	演習Bでは基本的なエフェクトプラグインを取り扱う。準備学習として、テキストの「エフェクター」の項を予習しておくこと。習得内容の確認のため、演習課題を制作する。
	9	データ制作演習(C-1)	演習Cではアイテムの応用操作を取り扱う。準備学習として、テキストの「アイテム」「音符と休符」の項を予習しておくこと。習得内容の確認のため、演習課題を制作する。
	10	データ制作演習(C-2)	演習Cではアイテムの応用操作を取り扱う。準備学習として、テキストの「アイテム」「音符と休符」の項を予習しておくこと。習得内容の確認のため、演習課題を制作する。
	11	データ制作演習(D)	演習Dではミックスにおけるオートメーションを取り扱う。準備学習として、テキストの「オートメーション」の項を予習しておくこと。習得内容の確認のため、演習課題を制作する。
	12	プラグインエフェクター(1)	演習で扱ったエフェクターについて、プリセット以外のパラメータを学習する。また、授業で使わなかったエフェクターでも一般的に利用されていれば取り上げる。講義全体を通しAL4を行う。
	13	プラグインエフェクター(2)	同上
	14	最終課題制作(1)	第13回までの内容を踏まえて課題を制作する。
	15	最終課題制作(2)	同上
授業形態	講義と演習 アクティブラーニング：①：0回，②：0回，③：5回，④：2回，⑤：0回，⑥：0回		

達成目標	1. MIDIとAUDIOの違いを理解し、データ制作に利用することが出来る（基礎） 2. プラグインをデータ制作に利用することが出来る（基礎） 3. ミキシングの基本操作が出来る（基礎） 4. エフェクターの基本操作が出来る（基礎） 5. オートメーションを理解する（応用） 6. プラグインのパラメータを理解する（応用）
評価方法・フィードバック	最終課題制作（授業計画の第14回・15回）で評価を行う。 評価結果は評価点60点（100点中）以上を「合格」、満たない場合を「不可」とする。 ただし、各演習の提出物について「締め切りが守られない」「未提出」などの場合は、評価点に対して減点を行い、その結果「不可」になることもある。原則として提出物に関するフィードバックは次回以降の授業で実施。
評価基準	評価点によって以下の通り評価する。 秀(1～6)：90点以上 優(1～5)：80点～89点 良(1～4)：70点～79点 可(1～3)：60点～69点 不可：59点以下
教科書・参考書	特定の教科書を使用せず、授業用にまとめたものを使用する。
履修条件	特になし
履修上の注意	講義では演習も行うため、ノートパソコンとLANケーブルを持参すること。 ツールやプラグインに関して、ライセンスが設定されているものは配布できないため、プレゼンテーションに留める。（特に授業計画の第12回・13回）
準備学習と課題の内容	授業毎に復習して内容を理解した上で、次回の授業に臨むこと。毎回、予習復習それぞれ1.5時間程度演習などを仕上げる必要がある場合は、次回までに仕上げをしておくこと。 授業計画の第5回以降は、基本操作についての再説明を行わない。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解:30%, 思考・判断:20%, 関心・意欲:15%, 態度:10%, 技能・表現:25%
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	